

令和7年度外部評価会 集計表(農業者)

所属名: 大島支庁徳之島事務所農業普及課

課題名② 徳之島におけるかぼちゃ安定生産に向けた取組						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	2	1			
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	2	1			
活動体制・ 活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	2	1			
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	2	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	1	2			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	2	1			
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか		3			
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか		3			

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名：大島支庁徳之島事務所農業普及課

課題名② 徳之島におけるかぼちゃ安定生産に向けた取組						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	7	2			
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	6	2	1	・実証農家数をもっと増やす必要があると思いました	・実証している技術につきましては、徳之島での適応性を確認したのち、関係機関と検討のうえ、展示ほとして設置数を増やしていきます。
活動体制・ 活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	3	4	2	・徳之島支場の情報収集 ・どれくらいのスパン(何年?)での実証を検討しているのか？実証戸数を増やす検討しているのか、がわからなかったです	・徳之島支場からの助言を踏まえながら、地域での技術の適応性を確認しています。 ・試験研究機関から出されている技術は、徳之島での適応性を確認でき次第、展示ほを増やしていきます。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	3	5	1		
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	5	3	1		
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3	4	2	・かぼちゃ生産者の課題認識についても今後 も検証してもらえればと思います	・生産者へのアンケート調査・聞き取りにより、目標や現状を確認し、目標達成のために必要な課題解決に取り組んで参ります。
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	4	3	2		
活動の 波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	4	4	1	・コスト削減についてはもう少し検証してもらえればと思います	・生産者が技術を導入すべきかどうか判断できるよう、技術を導入した場合にどれほどの増益が見込めるか、また、新たに生じる費用等を整理していきます。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3	6			

徳之島における かぼちゃ安定生産に向けた取組

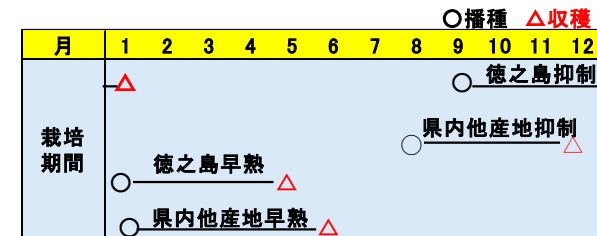
大島支庁徳之島事務所
農業普及課技術普及係
後釜 孝哉

1

かぼちゃ生産について

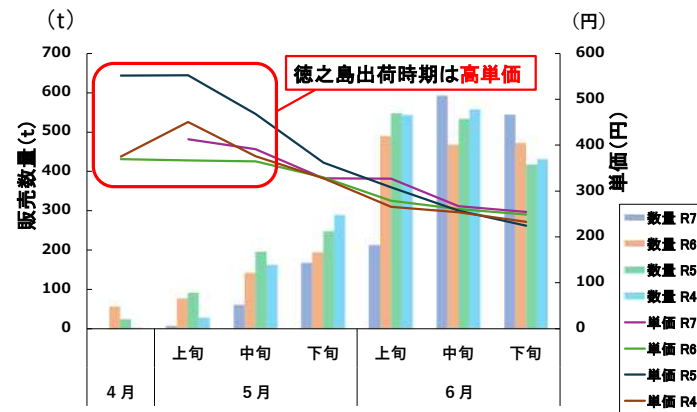
- ・メイン作物との組み合わせ品目として、
抑制栽培と早熟トンネル栽培の年2回作付け
- ・国産かぼちゃが少ない時期に生産可能

各産地のかぼちゃ栽培期間



2

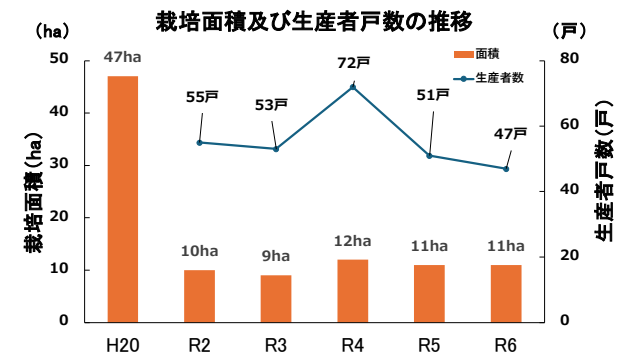
早熟かぼちゃ月別販売実績 (JA鹿児島経済連)



3

徳之島のかぼちゃ生産の現状・問題点

生産者の高齢化により、労働力不足
栽培面積が増えず、生産者戸数は減少傾向



4

安定生産に向けた課題・取組

問題点: 労働力不足で栽培面積が増えず

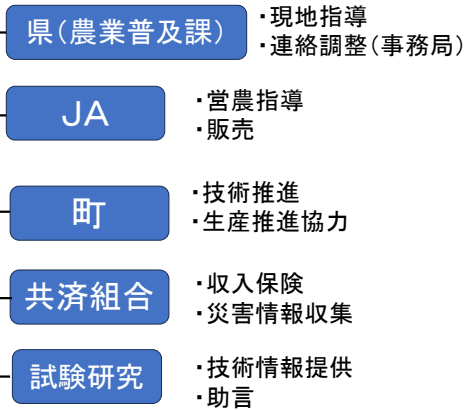
めざす姿: 省力栽培→産地規模維持

課題: 栽培の省力化

取組: ①省力栽培技術導入に向けた検討
②省力栽培技術の波及

5

園芸振興協議会徳之島支部



6

栽培省力化に向けた取組

授粉作業, 温度管理(換気作業)は負担大

授粉作業及び温度管理に係る時間(農家聞き取り)

作業	作業時間 (h/10a)	全作業時間に 占める割合(%)
授粉作業	28	11
温度管理(換気)	31	13

7

1 授粉作業の省力化に向けた検討



人工授粉栽培

自然受粉栽培

人工授粉栽培と自然受粉栽培で
作業時間・収量・収益性を調査

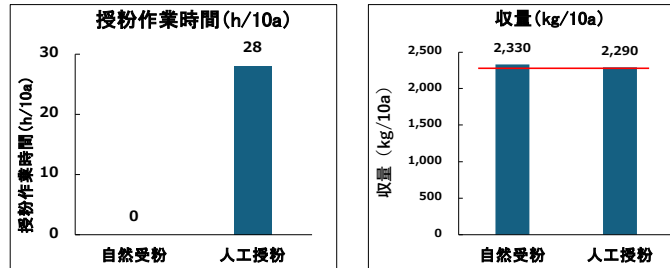
※1月下旬播種の品種「えびす」栽培

8

1 授粉作業の省力化に向けた検討

【授粉作業時間・収量】

- ・自然受粉栽培では授粉作業時間が削減
 - ・自然受粉, 人工授粉で収量は同等
- (※えびす1月下旬播種栽培)



9

1 授粉作業の省力化に向けた検討

【10aあたりの農業所得】

- ・自然受粉, 人工授粉で農業所得(円/10a)は同等
- (※えびす1月下旬播種栽培)

品種 (受粉方法)	収量 (kg)	単価 (円/kg)	販売額 (円)	経費※ (円)	家族労働費 (円)	農業所得 (円)
えびす (自然)	2,330	365	850,450	594,408	123,989	256,042
えびす (人工)	2,290		835,850	585,983	152,717	249,867

※自然受粉では巣箱費用8,425円増加
 自然受粉栽培の労働費は, 授粉作業削減により,
 $28時間 \times 1,026円(最低賃金) = 28,728円/10a$ 削減

10

1 授粉作業の省力化に向けた検討

【まとめ】

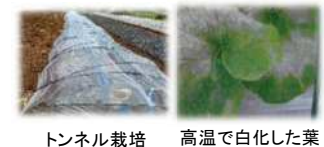
- ・自然受粉栽培で授粉作業時間が大幅削減
- ・授粉方法による収量・収益性の差は無し
(※1月下旬播種えびす栽培)
- ・実証農家より「技術導入で面積を拡大したい」との声

11

2 換気作業の省力化に向けた検討

【温度管理(換気作業)】

トンネル内温度が上昇しすぎる
 (40℃を越えるときも.....)
 →トンネルの開閉(換気)が必要



【他産地の不織布被覆栽培の事例】

保温性・通気性が良い不織布で被覆すると
 換気作業の省力化につながる



12

2 喚気作業の省力化に向けた検討



農ポリトンネル
(慣行栽培)



不織布トンネル



不織布ベタ掛け

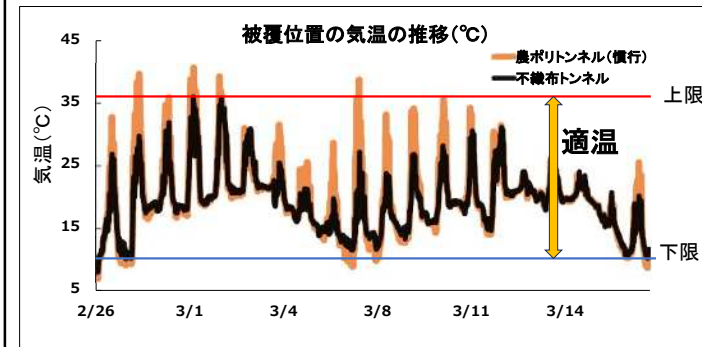
農ポリ被覆区(慣行)と不織布被覆区で
喚気作業の労働力・収量・収益性を調査・比較

13

2 喚気作業の省力化に向けた検討

【喚気作業時間調査結果】

・不織布被覆で喚気作業時間が**31時間/10a削減**



14

2 喚気作業の省力化に向けた検討

【収量について】

・農ポリトンネル区では寒風の影響で生育が抑制
→区間で収量比較ができず

改めて実証を行い、明らかにする

15

3 省力栽培技術の波及に向けた取組

【実証より得られた成果】

自然受粉実証

・自然受粉で授粉作業省力化
・収量・収益性は自然授粉・人工授粉で**同等**
(1月下旬播種「えびす」栽培)

不織布被覆栽培実証

・不織布の利用により
喚気作業時間が削減
・収量比較はできず

【波及に向けた取組】

関係機関で検討を行い
「省力栽培マニュアル」を作成



16

取組の成果・今後に向けて

- ・現地実証を重ね、マニュアルを作成・配付
- ・実証農家からは、技術の導入に前向きな声も
→一方、経費の面に課題

省力栽培に必要な資材経費

購入負担が大きい

資材名	規格	使用量/10a (※畝間5m)	利用年数 (年)	購入価格 (円)	費用 (円/10a/利用年数)
ひだまり(不織布)	200m	200m	5	37,000	7,400
オークラfc50ノーパーリ(慣行)	200m	200m	1	11,550	11,550
らくらく交配2000sp (交配用ミツバチ)	20aに1箱	1 / 2 箱	-	16,850	16,850

17

取組2 単収向上に向けた技術定着支援

【聞き取り・情報収集の結果】

- ・奇形果の発生が多い
- ・うどんこ病防除が徹底されず
- ・出芽率が良くない

18

2-3 低発芽率の要因把握及び発芽率改善対策検討

品種	かん水方法	育苗培土	育苗容器
えびす	播種当日のみ	MKK野菜1号 (水はけ良)	セルトレイ (55穴)
栗将軍	毎朝かん水	与作IN-150 (水もち良)	ポリポット (3号)

想定される低発芽率要因毎に区分けし、各区で発芽率を調査

19

2-3 低発芽率の要因把握及び発芽率改善対策検討

【発芽率調査結果、低発芽率要因】

- ・毎日かん水(過かん水)で発芽率悪
- ・発芽率は「MKK」>「与作」

かん水方法	培土	品種	容器	発芽率 (%)
播種当日かん水のみ	MKK	えびす	セル	92
		ポット	100	
		栗将軍	セル	92
		ポット	100	
播種後、毎朝かん水	MKK	えびす	セル	64
		ポット	92	
		栗将軍	セル	68
		ポット	76	
播種後、毎朝かん水	与作	えびす	セル	88
		ポット	96	
		栗将軍	セル	4
		ポット	60	
播種後、毎朝かん水	与作	えびす	セル	0
		ポット	12	
		栗将軍	セル	0
		ポット	4	

【発芽率改善に向け】

- ・手順を示す資料を作成



20

2-4 栽培講習会や巡回での生産者支援

基本技術の定着に向け

- ・低温時期の花粉確保対策の周知
- ・発芽率改善に向けた対策の周知
- ・うどんこ病防除事例の紹介



栽培講習会の様子

月日	農薬	RAC	備考
2月26日	硫黄粉剤(予)	M02	株元脇芽除去
3月4日	硫黄粉剤(予)	M02	
3月8日	ストロビーフロアブル(予, 治)	11	
3月11日	硫黄粉剤(予)	M02	
3月28日	硫黄粉剤(予)	M02	
4月4日	トリフミン水和剤(予, 治)	3	発生後
4月16日	モレスタン水和剤(予, 治)	UN,M10	発生後
4月22日	ベジセイバー(予, 治)	7,M05	発生後

栽培講習会時に生産者の防除事例を紹介

21

取組の成果・経過・今後に向けて

【取組の成果・経過】

- ・改善に向け生産者の意識も高まりつつある。

【今後に向けて】

- ・引き続き, 情報提供を行い, 技術定着を促す。
- ・問題点の発見につとめる。

22